

メール連絡網「携太」

－携帯電話から情報発信する緊急連絡網システム－

株式会社ティー・アイ・エス 代表取締役 玉奥 信幸

ewsinfo@tis-group.jp

http://www.tis-group.jp

http://www.tis-group.jp/keita/keita.htm

キーワード：緊急連絡網，迅速，正確，メール，子どもの安全，保護者の安心

1. はじめに

警察庁が平成16年12月に発表した犯罪情勢によると、平成16年(1～11月)における子ども(少年、20歳未満の者をいう。以下同じ)の刑法犯に係る犯罪被害件数(「被害者の年齢不明」、「法人・団体」及び「被害なし」を除く認知件数をいう。以下同じ。)は、33万726件(全体の16.7%)となっている。(図表1)

子どもの被害件数を主な罪種別に見ると、窃盗が28万474件(子どもの被害全体の84.8%)で最も多く、次に傷害が6,433件(同1.9%)、恐喝が6,381(同1.9%)、暴行が5,871件(同1.8%)、強制わいせつが5,094件(同1.5%)などとなっている。

また、子どもが被害者となる割合の高い罪種について見ると、略取・誘拐(77.7%)強制わいせつ(59.6%)、公然わいせつ(55.7%)、恐喝(48.7%)及び強姦(44.9%)などが全刑法犯被害件数に占める子どもの割合(16.7%)より高くなっている。この結果を1日に換算すると平均990人の子どもたちが被害にあっていることになる。

図表1

区分		年次	平成15年		平成16年	増減	
			(1～11月)		(1～11月)	件数	率(%)
全刑法犯	被害件数		2,367,967	2,165,340	1,974,861	-190,479	-8.8
	少年		385,762	354,304	330,726	-23,578	-6.7
	(割合%)		16.3	16.4	16.7	0.4	-
	成人		1,982,205	1,811,036	1,644,135	-166,901	-9.2
	(割合%)		83.7	83.6	83.3	-0.4	-

このような社会状況の中で、子どもたちを守ろうと、事件や事故の予防策はたくさん考えられ、開発されているが、事件後や事故後の連絡網はまだまだ電話に頼っているのが現実である。

2. メール連絡網「携太」の概要

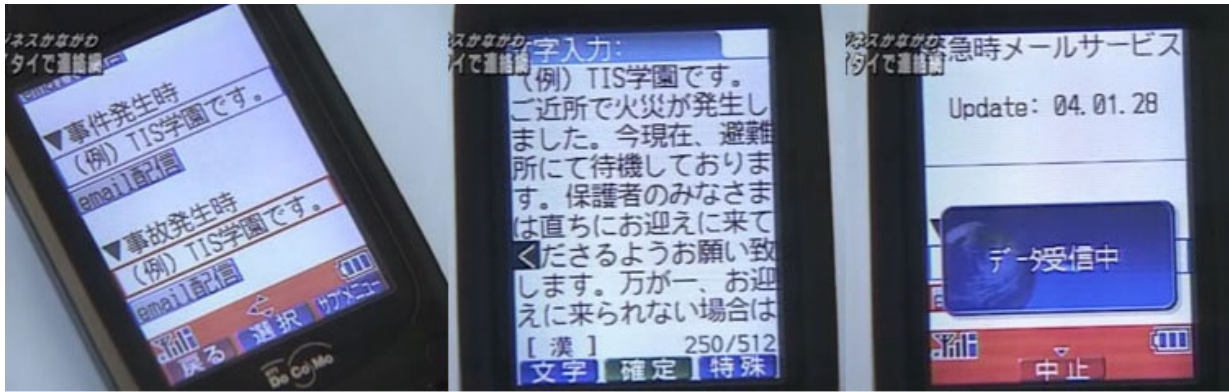
メール連絡網「携太」は、名前の通りメールを利用した緊急連絡網である。勿論、通常でも使用は可能である。パソコンから使用出来るが、携帯電話からも使用が可能である。両方クリックを数回行うだけで一斉に連絡網がまわる仕組みになっている。(初回時のみURLを入力する必要がある。)学校側は保護者のメールアドレスを入力したり、登録を行ったり、変更したりする操作はまったく無く、ただ連絡網を発信するだけである。また、携帯電話を利用できるので、子どもたちを避難・誘導させながら、表から連絡網を発信できる。

学校側の操作方法は次の流れである。(携帯電話使用時 写真1)

- ①携帯電話から、予め決められた専用URLに接続する。(初回時にブックマークに登録しておく。)
- ②パスワード(数字4桁)を入力する。
- ③緊急内容を選んで、送信ボタンを押す。

以上の操作で終了である。わずかクリック5回ほどの作業である。

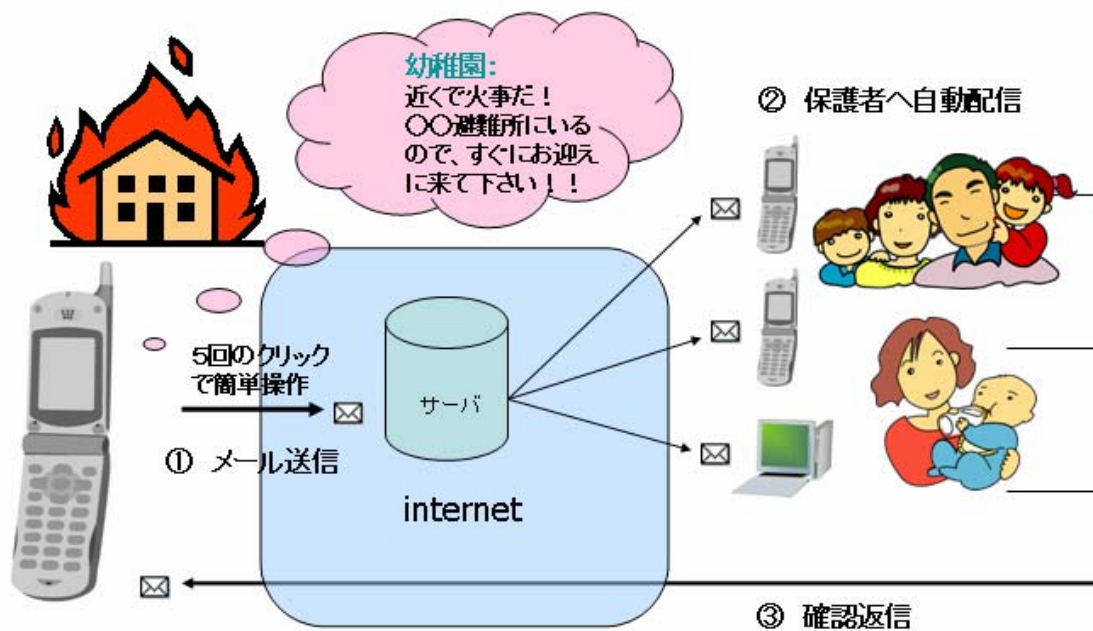
写真 1



メールを受け取った保護者は、次にまわす必要も無く、同じ内容が配信されるので、間違えることも無い。また、メールであれば受け取る時間や場所を選ばないので、出すほうも出しやすくなる。保護者は、空メールを送ることで確認の返事になり、学校は確認メールを専用ソフトで管理するため、確認が取れなかった保護者にフォローすることができる。(図2)

(図2)

--- メール連絡網「携太」サービス利用イメージ ---



3分~15分程度で全保護者の確認が出来ます!!

3. まとめと課題

自分達で行おうとすると、様々な問題点に当たってしまうことと、コストも年間3万円で利用できるのので、導入済みの幼稚園・学校や保護者からは大変喜ばれている。また、使用上で大きなトラブルは発生していない。今後は送達・受信確認をソフトに頼るのではなく、サーバー上にデータベース化していく方針である。そうすることで、避難先から瞬時に確認が行えるようにしたい。